

Allied Health Sciences

北里大学 医療衛生学部

2006年5月1日 発行

— 創刊号 —



〒228-8555 神奈川県相模原市北里1丁目15番1号

TEL 042 (778) 8111 (代) FAX 042 (778) 9628

http://www.ahs.kitasato-u.ac.jp

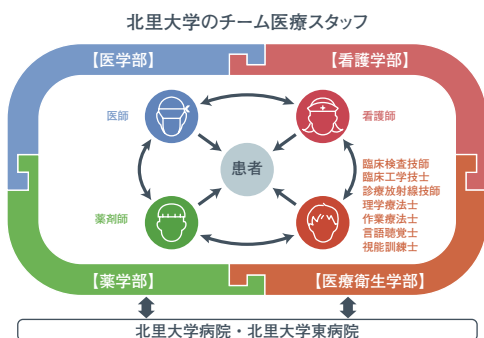
発行責任者：学部長 齋藤 豊和

チーム医療教育の実践

教育委員長 梅田 徳男

医療現場では医師、看護師をはじめとする多種多様なコメディカルスタッフによる医療チームが構成され、患者中心の良質で安全なチーム医療が行われている。このようなチーム医療を実践できるコメディカルスタッフには、他職種

の知識・技術、患者接遇を理解し、職種間の相互理解と連携・協働できる能力や患者を総合的に診る能力が望まれる。



講している。平成17年度には11科目が開講された。また、短期間ではあるが学部低学年でコメディカルスタッフの職種、患者接遇などを経験させて、コメディカルスタッフとしてのモチベーション向上、受講意欲の高揚、教育効果の向上を目指したアリーエクスポートを実践している。

これらの教育を医療衛生学部内での7職種のコメディカルスタッフと衛生管理者等だけではなく、医師や看護師、薬剤師などの連携・協働の必要性から、学部横断的な教育とすることが望まれる。平成18年度は医学部や看護学部、薬学部と共に、5月1・2日の両日

でチーム医療教育を試行実施する。参加学生は各学部での臨床実習を終えた医学部5年生、看護学部、薬学部、医療衛生学部4年生（OJT、PJTは臨床実習の関係で3年生）の約900名である。本チーム医療教育は教員約150人に職員の参加も得る。平成19年度からは本格実施として、各学部での教育を含めた1週間のプログラムになる予定である。

創刊に寄せて



学 長
柴 忠義

北里柴三郎博士は、門下生や研究生らと研究の研鑽を図りコミュニケーションを深めるため、月に1度集会を開きました。しかし仕事の都合で参加できない多くの同窓生達や一般研究者からその記録の刊行を熱望され、明治28年に「細菌学雑誌」として発刊しています。こうした歴史を考えますと、情報発信もまた北里の良き伝統であり文化といえます。今般、医療衛生学部が情報誌を発刊することは、学部の充実と医療衛生学の発展に寄与するものと確信し、大いにご期待申し上げます。

発信手段として

Allied は、近縁の同類のという意味と、結びついて同盟したという2つの意味が辞書にあります。本学部の4学科8分野の関係が、学部の構成単位として並列に存在するだけではなく、各分野の特性を理解しあい、教育研究両面で、連携を深め、alliedの後者の意味を実現して、研究と技術の開発が行われる事を望み、その発信手段として本誌が役に立ちたいと願います。

また情報を活発に発信し学部に活気ある学生が集う事に貢献したいと思っています。



編集長
浜崎 道子

このたび「Allied Health Sciences」が 情報誌に



発行されることになりました。誠にうれしい限りです。医学部から医療衛生学部に移ったとき、学生と教職員間で授業等を通しての接触はあっても、学部内外の情報を学生に

学部長
齋藤 豊和

知らせる、また学生からの提案等を伝え合うような情報伝達が少ないことを感じておりました。今般この発行により、教職員と学生の互いの情報が反映され、息の長い情報誌になるように切に希望致します。

特集

「健康と環境」をテーマに学ぶ

健康科学科

健康科学科は、「健康と環境」をテーマに、社会問題になっている酸性雨、シックハウス、アスベスト、ストレス等に関係する調査や対策等を実践的に学んでいます。

酸性雨

研究室では雨の降り始めから降り終わりにかけて、雨の中の成分がどのように変化していくか調べています。ごく初期の雨(0.1mm～1mm)を0.1mm毎に分けて採取しています。降り始めではpHが4.0以下になることも多く、30位まで下がったときもありました。かなり強い酸性です。pHのほか、鉛、ニッケル、銅、亜鉛、スズ、ヒ素など有害な微量金属元素の濃度も測っています。降雨の進行に伴う濃度変化の様子から、それぞれの元素の特徴をつかむことが出来ます。鉛などは中国から運ばれてきたのではないかという証拠も見つかっています。

シックハウス

新築あるいは改築した家の居住者から「めまい」「吐き気」「頭痛」等の自律神経の失調に関する相談が保健所・医療機関等に寄せられますが、このような症状を「シック

ハウス症候群」と呼んでいます。その原因は、化学物質を放散する建材・内装等によると考えられています。本学科では、大気中の化学物質を分析するために、ガス検知管や液体クロマトグラフィー等の分析技術を修得し、また、室内ホルムアルデヒド等有機溶剤濃度の実態調査も行います。

アスベスト

アスベストは日本名で石綿(せきめん、いしわた)といい、天然の繊維状鉱物の総称です。アスベストは、燃えない、熱を遮断する等の優れた性質を有し、紡織品(消防服等)、吹付け石綿(天井、壁等)等に用いられました。しかし、肺に入ると長い期間を経て中皮腫や肺がんを発症すると言われ、現在、石綿含有製品は殆ど禁止されています。今後、建物等の老朽化による解体工事の増加に伴って、解体を行う労働者の石綿曝露による健康障害が懸念されています。本学科では、アスベスト問題の解決の

●衛生管理者

働く人の健康管理と快適で安全な職場環境づくりを行う国家資格です。健康診断の実施、危険な職場での防護マスクや防護服等の着用指導、騒音・振動等の調査と改善、更に労働災害の原因究明と再発防止等を行います。また、職場のIT化に伴うコンピュータ作業による精神又は身体的疲労等を少なくするために、適切な環境に改善します。

取れる資格①

ための第一歩となるX線解析装置や位相差顕微鏡を利用した分析手法を修得し、環境中濃度の低減のための方策についても学んでいます。

現代人のストレス

最近「このころの時代」とよくいわれますが、現代社会の中で人は様々なストレスにさらされており、それらが適切に処理されないで精神的な不健康が生じて、現実には、いじめ、不登校、虐待、PTSD、引きこもり、自殺などの問題が山積しています。

精神の健康科学では、先ず、精

神の健康・発達や性格・心理アセスメント、上述の精神的な不健康に加えて、うつ病、統合失調症、認知症、薬物依存などの精神障害について学びます。次に、精神障害の発生・再発予防に関連してストレス解消法や職場における精神衛生管理を、さらには産業カウンセラー資格取得に繋がる講義と演習で学び、地域社会の精神障害リハ

ビリテーションの見学実習を体験します。



雨の採水器

卒業研究

Ⅱ 題

卒業生
の語

(平成18年3月卒)

Ⅰ 公衆衛生学研究室

泊り 絵美子

私が行った卒業研究は、ガン細胞にメラトニンという生体内のホルモンを投与し、細胞の増減をみるというものでした。その結果ガン細胞が減少したため、メラトニンはガン細胞の増殖を防ぐ働きがあると考えられました。このような結果を得るまでには、細胞がうまく育たなかったり、実験器具が届かなくて研究がストップしてしまったりなどさまざまな困難にぶつかりましたが、自分自身で対処法を考えて最後まで研究をやりぬいたことが今では自信につながっています。

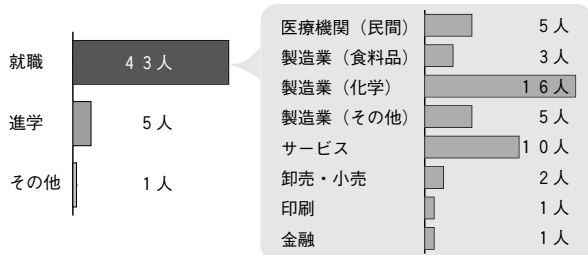
Ⅱ 衛生管理学研究室

小根森 菜月

この専攻で医療や環境分野について様々な科目を学びました。特に興味を持った事は、病理学や免疫学といった生体に関する分野で、体の複雑な仕組みや一般的に知られている病気について大変興味が沸き、更に詳しく勉強してみたいと思いました。実習では、微生物の培養、河川水や工場粉じんの分析など貴重な体験ができました。3年次までの勉強の総仕上げである卒業研究は、知識を得るだけでなく自分で考えて行動する力を身につけられたと思います。内容の濃い充実した4年間を過ごせる事ができてよかったです。

就職・進学データ

平成17年度卒業生（総数49人中）



5年間の主な就職・進学先一覧

〔企業〕 日産自動車(株)、柴田科学(株)、日本環境クリエイト(株)、(株)環境公害センター、(株)環境管理センター、(株)日本環境調査研究所、アース環境サービス(株)、(株)千代田テクノ、大塚製薬(株)、田辺製薬(株)、明治製菓(株)、テルモ(株)、(株)佐藤製薬、日本新薬(株)、エーザイ(株)、キリンビール(株)、アサヒ飲料(株)、(株)神戸屋(株)消費経済研究所、オハヨー乳業(株)、(株)紀文食品(株)、(株)日本食品分析センター、(財)北里環境科学センター、(財)労働衛生協会、(財)京都工場保険会、(財)静岡県生活科学検査センター、(財)中部公衆医学研究所

〔公務員〕 厚生労働省(検疫官)、東京都(食品衛生監視員)、神奈川県(衛生研究所)

〔進学〕 北里大学大学院、東京大学大学院、名古屋大学大学院、信州大学大学院、静岡県立大学、東海大学大学院、京都大学大学院

健康科学科を構成する

4研究室

環境衛生学

健康の保持・増進するためには外部の環境との関わりを知り、良い環境を保全することが重要です。当研究室では、環境がどのような原因で変化し、健康に影響を与えるかについて『水環境・大気環境・微生物環境への取り組み』を行なっています。

・主な研究内容

- 【環境水】①酸性雨に含まれる人為的化学成分の発生源を追究
- ②河川水中の化学成分の時間的・地域的変動の解明
- ③活性汚泥法を用いた生活排水処理の効率化の検討
- 【廃棄物処理】生ごみを減量するデイスポーザ排水処理性能の向上に関する検討
- 【大気】自動車排ガスや石炭燃焼ガスが大気汚染や酸性雨に与える影響の検討
- 【環境微生物】①貸与介護福祉用具の効率的な消毒法の検討
- ②食品製造ラインを汚染する細菌に対する殺菌法の検討

公衆衛生学



健康科学科があるA1号館

公衆衛生学では、個人と集団の健康と病気に影響する環境と食、労働について包括的に研究と教育をしています。ヒトの健康の保持・増進や予防対策に必要な科学的な思考と実践には、分子予防医学、疫学研究、環境保健、産業保健、毒物学の知識と技術を多面的に活用しています。研究は、経済的発展途上国や我が国の先端産業に対応すべく活動を行っています。

- ・主な研究内容
- ①慢性ヒ素中毒の根絶と予防対策に関する研究
- ②海藻類多食者におけるヒ素暴露と生体影響に関する研究
- ③有害化学物質の無毒化と自然還

元に関する研究

④酸化的DNA損傷マーカーによる生体影響評価法に関する研究

衛生管理学

企業や地域社会で生活し、働く人々の健康に対する有害因子の測定や障害防止のための対策について作業環境測定、環境中毒学、分子生物学、産業保健学の視点から研究、教育をしています。

有機溶剤を測定するためのガスクロマトグラフィー、カドミウム、

●作業環境測定士

厚生労働省認可の国家資格であり、働く職場環境中に有害な要因（有機溶剤、鉛、アスベスト、放射線、騒音など）がどの程度存在するかを調査し、働く人の健康がどれくらい危険にさらされているかを把握することにより、働く職場環境を良くする仕事です。第一種作業環境測定士（環境調査の計画、試料採取、全ての分析）と、第二種作業環境測定士（調査の計画、採取、簡易的測定機器による分析）があります。

取れる資格Ⅱ

精神衛生学

水銀等の元素を測定する原子吸光度計、アスベスト測定のX線回折装置、遺伝子解析に関する遺伝子発現解析装置を用いて、有害化学物質の生体影響の評価・予測や予防対策について、動物実験や企業の産業健診での実践を通して研究、教育しています。また、汚水廃水に起因する病原微生物の環境汚染の評価や対策に関する研究も行っています。

当研究室では、とかく切れやすいと言われる現代の若者の精神的な健康、ストレス、怒りの実態を明らかにするために、先ずは大学生を対象に様々な心理テストを用いた調査研究をしています。また、いろいろな職場で働いている人々のストレスとその対処法、睡眠障害、抑うつについても調査しています。また、最近特に注目されている「笑い」の癒し効果を精神生理学的な立場から研究し、さらには、人の表情の変化を画像撮影し、コンピュータ処理によって数量化する研究にも取り組んでいます。その他、最近の社会問題でもある薬物の乱用との関連で、大学病院の薬剤部と連携して向精神薬を中心とする薬物の使用動向や有害作用に関する研究も行っています。

トーマスジェファソン大学との教育交流

作業療法学専攻教授 浅井 憲義

医療衛生学部は2000年から米国フィラデルフィアにあるトーマスジェファソン大学(TJU)との教育、学術交流を行っている。本交流の目的は両大学の教員および学生がもっている研究や教育の知識や経験を共有し、国際的な視点で医療衛生を考え、推進できる人材の育成の一翼を担う機会をもつことである。

TJUは医学部、衛生学部をもち衛生学部には看護学専攻、細胞検査学、放射線専攻、理学療法学、作業療法学を有し、北里大学と学部構成が非常に類似している。過去5年間の学部間交流を通じて、細胞検査学は毎年2名から3名の学生が3週間ずつ相互交流を行い、互いの国の学生と机を並べ授業を受けている。理学療法学、作業療法学の学生は隔年ごとに1週間ではあるが、お互いの大学を訪問しリハビリテーションに関わる施設を見学し、授業に参加して両国の医療制度や教育内容の類似点や相違点を実感し、討論する経験をしている。診療放射線技術科学専攻は教員間の交流を行い、お互いの専攻の教育、研究の情報収集に努めている。

17年度はTJUから学生8名(細胞検査学2名、作業療法学3名、理学療法学3名)と教員3名が当



学部を訪れ、TJUへは細胞検査学学生2名が3週間の授業を受けに渡米した。

18年度の具体的な目標は理学療法学、作業療法学専攻では両大学の教員が行っている研究の中で、共通テーマについてデータを活用し、国際的に通じる研究につなげることで一致した。診療放射線技術科学は教員だけでなく学生の交流を実施することとなった。また、医療検査学科は細胞検査学が今まで築いた学生間の交流の実績を踏まえて、学科の全学生、教員を対象に訪問者を選出し、交流の拡大を検討している。

このように、TJUと当学部の国際交流は開始されて間もないが、両大学の儀礼的な交流に留まるのではなく、研究、教育両面で具体的な実績を積み重ねることで、本交流の目的が完遂できると期待される。

第9回医療衛生学部教員教育研修会

実行委員長 大部 誠

第9回教員教育研修会は平成18年3月11日(土)午前9時から午後5時まで全教職員を対象としてA3号館33番講義室にて開催されました。今回はメインテーマを「現代学生気質をふまえて教育問題を考える」とし、午前中に基調講演、パネルディスカッション、午後に総合討論という形式を取りました。

基調講演は早稲田大学人間科学学術院教授・山崎久美子先生に「現代学生気質の理解とその対応」という演題でお話しいただきました。大変熱心なご講演の余り2時間にも及んだことから、質問の時間を大幅に短縮せざるを得ませんでした。が、講演に先立って用意していただいた講演内容の資料と相俟って今後の日常の教育に活かすことができる有益な知識を得ることができました。

続いて5名の方にパネリストになっていただき、学生気質の衛生学部時代との相違、学生気質を踏まえての教育スキル、提起されている問題と現代学生気質とは関係ないのでは? 器質的疾患に基づく問題が学生気質という名のもとにすり替えられていることがある、といった内容のお話をさせていただきました。ここでも基調講演の時間延長の余波を受けて質問の時間を取れなくなってしまう、やむを

得ず午後の総合討論でまとめて討議することとしました。

午後の前半は総合討論第1部として「教育(学部講義・実習、臨床実習、卒業研究)」に影響を与えている現代学生気質の実態」第2部「現代学生気質に起因する教育問題に対する教員・学部の対応策」と称して討論を行いました。第1部では司会者があらかじめ指定発言を依頼しPCを使ってプレゼンテーションしていただきました。第2部では司会者が指名して発言をいただいたりしながら総合討論という形を取りました。テーマが難しい内容だけにクリアカットな結論が得られたわけではありませんが、現在記録集を作成しており全教員に配布する予定です。この記録集は抄録集と一緒に綴じていただき、日常の教育、実習指導、今回のテーマに対する将来の検証に役立てていただければと祈念しております。



臨床実習 体験記

臨床検査学専攻4年

根岸 未来

臨床検査学専攻の病院実習は、北里大学病院本院及び東病院で行われますが、私は本院で3年次の11月から翌年の1月までの9週間検査全般について行いました。当初、脳波・筋電図検査室で2週間

理学療法学専攻

教授 増田 卓

理学療法学専攻は、平成18年4月より二見俊郎、増田卓、松永篤彦の3教授、福田倫也助教授、柴喜崇、清水忍、渡邊裕之、佐藤春彦、坂本美喜の5講師、小倉彩、渡辺基子の2助手に横山美佐子講師と上出直人助手の2教員を新たに加えて、各教員がそれぞれの専門の立場から研究・教育そして臨床に情熱を傾けています。本専攻では、外部機関や学内から研究費を導入し自らの研究活動を推進するとともに、大学生や大学院生の基礎的・

固定で実習を行った後、7週間はローテーションで微生物や病理検査などの臨床検査を行いました。3年次までの講義や実習では実



ウイルス分離のための細胞培養

感が湧かなかったのですが、医療の現場で業務の一部に携わり、患者様と接する事により、今までにない緊張感を感じました。そして教えて下さる技師さんを通して臨床検査業務の厳しさや臨床検査技師として働くことの意義が体験出来ました。

また講義や実習の基礎知識があつてこそということが臨床実習を始めてすぐに気づいたので、それを補いながらの実習は大変でした。また生理系検査で多くの患者様と接することにより検査業務がマニュアル通りにはいかない難しさを実感しました。

臨床的研究の指導を通じて、研究に立脚した大学教育を実践しています。

当専攻の学問的展開として、スポーツ障害、生活習慣病、高次脳機能障害、加齢に関する理学療法学、転倒予防事業、脳卒中関連介護医療などの臨床研究を推進し、さらに新時代に対応した理学療法学の基礎的学問体系を確立することを目指しています。学生教育の展開では、学生が北里学園に属す

我が専攻 ①

理学療法学

機能障害、加齢に関する理学療法学、転倒予防事業、脳卒中関連介護医療などの臨床研究を推進し、さらに新時代に対応した理学療法学の基礎的学問体系を確立することを目指しています。学生教育の展開では、学生が北里学園に属す

診療放射線技術科学専攻4年

森 沙織

① 実習先病院は？

北里大学病院・東病院、慶應義塾大学病院

② 実習期間は？

10週間（3年後期）

③ 実習内容は？

診断部門（一般撮影・MRI・超音波など）、核医学検査、放射線治療

④ 何に興味を持ちましたか？

私は他人とコミュニケーションをとることがとても好きで、診療放射線技師の業務の中で唯一毎日患者さんと顔を合わせる放射線治療に興味を持ちました。

⑤ 指導してくれた先生の印象は？

無駄のない動きで的確に仕事をする姿を見てあこがれました（早く診療放射線技師になりたい）。

⑥ つかかったことは？

毎朝の満員電車がつかかったです。

⑦ 楽しかったことは？

講義で学んだ内容が実際に経験できたことです。

⑧ その他

磯辺先生の講義（放射線治療技術学）で使用了た資料が実習に大変役立ちました。また、臨床現場では学校の講義がいかに重要かわかりました。

掲 示 板

4月1日着任教員

平成18年4月1日付で5名の教員が本学部に着任されました。

山内 博・教授

（健康科学科・公衆衛生学）

坂本 豊美・講師

（作業療法学専攻・精神保健作業療法学）

横山美佐子・講師

（理学療法学専攻・地域理学療法学）

上手 直人・助手

（理学療法学専攻）

佐藤 英介・助手

（診療放射線技術科学専攻）

研究最前線

自動焦点眼鏡による高齢者の老視矯正支援

視覚機能療法学教授 魚里 博

高齢化が進む長寿社会にあって、高齢者の視機能とくに老視矯正を支援するため、眼鏡やOCTの光学的なものから手術療法・薬物療法など様々な試みがなされている。最も簡便で実用的な老視矯正は老眼鏡であるが、複数の眼鏡が必要で、掛け替えの不便さは高齢者にとっては大きな問題である。現在までに眼鏡の自動焦点化のアイデアは数多く提案されているが、実用的な自動焦点眼鏡は具現化されていない。

そこで、我々は、厚生科研費長寿科学総合事業の援助により、高齢者の老視矯正支援を目ざして、老視眼鏡の自動焦点化を目指した試作開発の研究を実施した。

当初は、レンズ屈折力を手動で連続可変できる眼鏡試作を試みた。薄膜内に特殊液体を封入したレンズを外部圧によりレンズ厚みと曲率を連続的に可変できる機構を構築した。眼鏡タイプの構造で小型軽量化を図ると共に、有効光学系の拡大や眼鏡デザインの改良を進めた。また次年度では、眼鏡の自動焦点化を検討して、その初期試作を行った。眼鏡フレームに傾斜センサーと駆動用マイクロモーターならびに制御回路・小型電源を組み込み、液体を満たした透明なプラスチック薄膜の形状を可変

することで、遠方から近方視までの任意の距離に屈折力を連続的に可変出来ることを確認した。今回の自動焦点機構による初期試作眼鏡での光学試験や装用試験・耐久試験により、自動焦点眼鏡の有効性と実用化への可能性を確認できた。現時点では、初期に試作した手動式の焦点可変眼鏡モデルに比較して、容積や重量が増す構造上の欠点が生じ、装用感や外見上の見栄えは低下したものの、眼鏡型の自動焦点化を具現化することが出来た。

現段階では一部構造上の問題や重量増加の欠点を有するが、自動化モデルの初期試作を行い眼鏡型の自動焦点眼鏡を具現化することが出来た。今回試作できた自動焦点眼鏡は、今後一部デザインの改良や眼鏡重量の軽量化など改善の余地は残るが、高齢者の老視矯正支援装置として極めて有用である。今後、本装置の市場化を図るには、さらなる小型・軽量化を目指して自動焦点化機構の改善も図っていくことが必要である。



伸張刺激が廃用性筋萎縮に及ぼす影響

理学療法学専攻講師 坂本 美喜

若手研究者

I. 研究背景

骨格筋の萎縮は、神経・筋疾患、加齢的变化、長期臥床や骨折後のギプス固定など様々な原因で引き起こされる。特に、活動量の低下により二次的に発生する廃用性萎縮は、臨床において多くの疾患で共通する問題であり、この廃用性変化を可能な限り予防することは、早期の社会復帰や機能回復を目指す上で有用である。

II. 廃用性筋萎縮モデルを用いた研究

不活動による廃用性筋萎縮のメカニズムを解明するために、関節固定や後肢懸垂、除神経などの実験モデルが用いられる。

私は、筋に外的に加わる伸張力の違いと廃用性筋萎縮の関連を検索するため、関節固定モデルを用いて研究をすすめている。これまでの研究において、筋に伸張力が加わらない状態（筋短縮位）で関節固定した場合、固定後早期から筋線維が波打つような特徴的な形態的变化（wave-like structure）や筋横断面積の減少を認めた。またこれらの変化は、骨格筋の中でもfast fiberにより多く出現する傾向がみられている。従来、後肢懸垂や関節固定における筋萎縮はslow fiberに影響が大きく、除神経モデルではfast



fiberにより強い萎縮を示すことが報告されている。さらに、後肢懸垂による筋萎縮モデルでは、筋タンパク質であるミオシンのユビキチン化が認められていることから、筋タンパク質のユビキチン化により分解が亢進し、その結果として、筋体積の減少が生じ筋萎縮を呈すると推測されている。

上述の研究情報などから、今後、短縮位固定後の骨格筋における神経筋接合部の変化やタンパク質分解酵素の発現等に注目し、関節固定後早期に生じる障害を明らかにしていきたい。さらに、適切な伸張刺激の有効性を検証するために形態的評価に加えて、筋張力測定等の機能面の変化についても解析をすすめたいと考えている。

III. 今後の展望

骨格筋に加わる伸張力は、過剰であれば筋に損傷を与え、逆に不足であれば効果が得にくいことが推測される。廃用性筋萎縮に対して、より有効な運動療法を確立するための基礎的資料となるように研究を展開していきたい。

再生医療・細胞デザイン研究施設

誕生

人工皮膚研究開発センター

教授 黒柳 能光

平成10年に開設された人工皮膚研究開発センターは、平成10～11年度に厚生省高度先端医療研究、平成12～16年度に厚生労働科学再生医療ミレニアムプロジェクト研究として採択され、全国規模の多施設臨床研究を展開して我が国の

今、数学者藤原正彦著の「国家の品格」(新潮新書)がベストセラーに挙げられています。現在の我が国はかつてないほどの荒廃ぶりを呈し、偽善や痛ましい事故、犯罪の温床になりつつあります。この荒廃は我が国のみでなく、世界中の先進国で共通に見られる現象です。藤原氏はこの本の中で「論理と合理」なる欧米型文明の基本的思想が本来抱えている限界によるものと指摘し、それに代わるものとして、我が国古来の「情緒と形」に価値を見出し、それには武士道の精神を学ぶべきと指摘して

皮膚再生医療の確立と普及に貢献してきました。細胞治療・遺伝子治療に関する新しい情報を北里大医療衛生学部から発信して最先端の再生医療を実現するために、平成18年4月に学部附属の研究施設が開設されました。医療衛生学部内の専門家を結集し、臓器再生および細胞治療を中核とした生命科学領域の基礎研究・応用研究と高度専門教育に取り組むために、人工皮膚研究開発センター、臓器再生研究開発センター、細胞デザイン研究開発センター、動物実験部門、評価部門からなる研究組織として本格的にスタートしました。

リレーコラム

齋藤 豊和

います。1943年にポール・クロードル(昭和初期の駐日フランス大使、詩人)は、日本について「日本人は貧しい。しかし高貴だ。世界でただひとつ、どうしても生き残ってほしい民族を挙げるとしたら、それは日本人である。古い文明を持ち、それを見事に近代文明に適應させた国」として日本を絶賛しました。しかし戦後60年、この日本の精神的荒廃には目を覆いたくなります。我々は国の行く末を真剣に見詰め、日本の良さを再発掘していかないと大変なことになります。

第1回教員研究交流会

研究委員長

小幡 文弥



平成18年2月24日(金)に第1回医療衛生学部教員研究交流会が開催されました。この会は齋藤豊和学部長が学部内の研究活動活性化を図る目的で呼びかけ、研究委員会が

中心となって実施いたしました。

当日はまず午後2時からA3・23番講義室において、梅田徳男、野城真理両教授による講演会が行われました。科学研究費への申請経験を踏まえたお二人のお話は、他の教員にとって非常に参考になるものでした。続いて午後3時より、5階の多目的実習室に場所を移し、各研究グループの研究内容および技術・機器を示したポスターを囲んでの討論および懇談会が行われました。全部で41枚のポ

際に蓋を開けてみると、本専攻の学生諸君のがんばりはすばらしく、卒業時までに学会発表に到達する学生が毎年のように現れている。その一方で、過去8期までの卒業

我が専攻②

臨床工学

臨床工学専攻

教授 馬淵 清資

生約300名の全員が国家試験に合格している。

臨床工学技士法第39条に、「医師その他の医療関係者と緊密な連携を図り、適正な医療の確保に努めなければならない。」という条

スターには、工夫を凝らしたのやユーモアあふれるものがたくさんありましたが、その中からベストポスター賞に遺伝子検査学が選ばれました(写真)。

飲食物も提供される中、200名を越す教員・大学院生・学部学生が参加し、なごやかかつ大変有意義な研究交流会となりました。また各研究グループの技術・機器は冊子としても配布され、今後の共同研究・共同利用に役立つものと期待されます。

項があり、チーム医療の概念を法律の条文としている。その意味で、本年5月に全学挙げて実施を予定しているチーム医療教育の実践は、臨床工学専攻の目指すところに近い。





2007年春 完成 相模原キャンパス新体育館

本年2月に着工された新体育館が平成19年1月に完成する。鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建、延床面積6,249.54㎡。隣に、地上4階・地下1階の部室棟が建つ。このふたつを結ぶデッキを含め全容が一新されるのは平成20年3月の予定だ。

部会介
学北紹

QQ〈救急〉クラブ

言語聴覚療法専攻3年 市川 清恵

私たちQQ〈救急〉クラブは、日本救急蘇生普及協会（愛知県）のご指導・協力の下、心肺蘇生法や応急手当などの技術と指導法を習得（協会認定の資格取得）し、主に講習会を行うことで、対象を学内に限定せず技術の普及を目指して日々活動しています。昨年度は、体育会クラブ員を対象に、心肺蘇生法と、三角巾を使った固定や止血法を指導しました。北里祭では、それに加え、自動体外式除細動器（AED）や火傷などの応急手当を分かり易く説明した資料を作成して配り、一般の方々にも、自分で出来る救命の知識や技術をより深めて頂きました。

また、救命救急医学の先生ご指導の下で、医学部1～4年生や病院職員を対象としたAED使用方法を含む心肺蘇生法の講習会で実技指導する機会も得ました。その他の活動として、救命救急の現場を知るために、大学病院の救命救急センターの見学（宿直）も行っています。



QQクラブの活動風景



『一番美しく』

監督 黒澤明

（1944年）東宝

6300円 白黒 85分

戦艦大和や武蔵にはニコン製の15・5メートルの巨大な測距儀が装備されていた。ニコンは戦後の光学機器の原点を見出すため、東宝が封印した「一番美しく」のDVD化を依頼した。舞台は、昭和19年の日本光学戸塚製作所。実際に照準儀や測距儀の作製現場で撮影が行われた。黒澤自身がセミド

これが



キュメンタリーだと評しており、今の日本人が失ったものが見えてくる。（ML 原 和矢）

おすすめ



本

『からだの自由と不自由：身体運動学の展望』

長崎浩著

中公新書価格 7200円

著者は作業療法・理学療法の運動学の授業で活用されている教科書『基礎運動学』の執筆者の一人である。身体運動の不思議さについて、哲学的な思考に踏み込みつつ、自由はつらつに語られている。運動学の歴史を学べるとともに、運動障害に対する新しい視点が見つかるとある。（PT 佐藤春彦）

編集後記

◆はじめに、本創刊号に原稿をお寄せ下さいました方々に、厚くお礼申し上げます。17年6月から9回の編集委員会を重ね、原稿依頼にこぎつけたのが年度末の忙しい3月1日の事でした。編集委員は恐る恐る原稿のお願いに伺いました。◆皆様の暖かいご協力を得まして、誕生しました本誌を魅力ある充実したもの発展させたいと思います。年2回の発行を予定しています。第2号の原稿のお願いに伺いましたときは、宜しくご協力下さい。◆編集委員はH S大場、ML原、S T鈴木、R T磯辺、基礎系野田、事務室大庭・井上です。ご意見ご感想を近くの編集委員へお聞かせ下さい。（浜崎）

第2号、秋に発行

原稿を募集します。

学生、教職員に知らせたい事や、専門分野に限らず、本、映画、趣味の話など、2000字から4500字程度にまとめ編集委員へお寄せ下さい。掲載させていただいた方には、図書券を差し上げます。